

三七 代田だいたの大人形おおにんぎょう

〔名称〕

代田の大人形（別称…ダイダラボッチ）

〔実施場所〕

石岡市井関字代田

〔実施時期〕

毎年八月十六日

〔伝承組織〕

代田区

〔由来伝承〕

天明の大飢饉の後、疫病などの災厄がムラに侵入しないように、藁製の大きな人形をムラ境に立てるようにになったのが始まりと伝えられるが、起源等の詳細については不明である。

かつて大人形作りをやめた際、その年に限って集落の働き手が病気で相次いで亡くなったという伝承があり、それ以来毎年欠かさず大人形が作られているといわれる。

元々は毎年八月十七日に、各戸の長男で十七歳から三十七歳の若衆によって作られたが、現在では若い人たちが少なくなったため、各戸から老若を問わず参加できる男性によって大人形作りが行われている。また、参加者のほとんどがサラリーマンになったことから、今から二十五年程前に、職場での休暇が取りやすい、お盆休みに続く八月十六日に実施日が変更された。

この大人形の行事は、代田を含め井関字梶和崎、古酒、長者峰、八木、三村字御前山の六つの集落で行われていたが、後継者不足、材料不足などの理由により八木、御前山の行事は途絶え、ほかの集落においても存続の危機にある。

このようなことから、代田の大人形は現在に残る貴重な民俗行事といえ、平成十六年三月二十五日に石岡市指定無形民俗文化財に指定された。

〔実施内容〕

代田の大人形はお盆明けの八月十六日に、全身を杉の葉で覆い恐ろしい形相をした、高さ二メートル程の藁製の大人形をムラ境に立てる行事であり、この大人形は一年を通して据え置かれ、翌年また同じ場所に作りなおされる。

製作過程と特徴について

①午後三時頃に大人形が置かれている場所に十二、三人の集落の男性が集まり、それまで一年間据え置かれた古い人形を解体し、近くの空き地で燃やす。

②近くの作業小屋に移り、藁で手、足、胸、臍へそ、男根、鉢巻等の部品を作製する（写真1）。また、竹と杉の若木を削って槍と大刀、小刀を作製する。

材料の藁については、八月より前に収穫され、水にも強い小麦藁が大人形に使われていたが、現在では小麦を作る人がほとんどいなくなってしまったため、材料のすべてに稲藁が使用されるようになった。しかしながら、その稲藁もコンバインでの稲刈りの普及により入手が困難な状況になってきていることから、当番になった家が前もって、大人形分の稲藁を用意する。

また、胸と臍、刀の鏢つば、槍の笠かさにあたる部分を棧俵（俵の蓋になる部分）で表現するが、その棧俵を上手に編める人が少なくなり、若い世代に伝えていくことが難しくなっている。

③それぞれの部品が完成すると、大人形が置かれていた場所に戻り、地面に立てられた体部の芯となる丸太に藁の束を巻き付け、ひとかかえ程になったら、藁縄でしっかりと縛り付け、六つ目の草刈り籠を被せて頭部の骨組にする。



写真1 手・足などの部品を作製する



写真2 体部を作製する



写真3 全身に杉の小枝を刺す



写真4 代田の大人形の完成

④足を体部の下両脇に藁縄で縛り付けて固定する。また、手も同様に、頭部の籠に絡ませながら藁縄で縛り付けて固定する。

⑤竹製の槍を右手の指の間に差し入れながら地面に突き刺し、槍を握るよう指を折り曲げて藁縄で縛り固定する。その後、体部の左脇に木製の大刀と小刀を差し込み、槍と同様に大刀を握るよう左手の指を折り曲げて藁縄で縛り固定する（写真2）。

⑥カレンダールの裏面にマジックで描かれた恐ろしい形相の顔を、ビニールの袋で覆い、草刈り籠に顔を藁縄で縛り付け、その上から鉢巻を巻き付ける。

かつて顔の部分の材料には、箕、菅笠などが利用されたが、今ではその姿を見ることさえ難しくなり、現在は紙、ベニヤ板、ブリキ板などが用いられている。また、顔には迫力を出すために、赤や青などの色が使われることがあるが、元々は毛筆による墨黒一色で描かれていたといわれる。

⑦棧俵で表現した胸と臍を、竹串で体部に刺して固定し、中央部に茄子を付ける。また、付け根部分の藁を二股に分けた男根を、体部に渡して固定し、先端が上を向くように地面に刺した竹で支え、先端の中央部に茄子とトウモロ

コシのひげを付ける。

⑧藁で作る体部が完成したら、採ってきた杉の枝を小枝に切り分け、全身に杉の小枝を刺していく。その際、胸や臍が隠れないよう注意し、はみ出した部分はハサミで整える（写真3）。

⑨最後に注連縄しめなわを腹部に回し、余った材料を前の大人形を燃やした場所で同じく処分をし、大人形が完成する（写真4）。

⑩大人形完成後、その年の当番宅か地区の集会所で、大人形作りの慰労と集落に災厄が入らないことを祈願した酒宴が催され、大人形の行事が終了となる。

〔類似の祭り・行事〕

代田に隣接する梶和崎かじわさき、古酒ふるさけ、長者峰ちやうじやみねの大人形について

梶和崎の大人形

梶和崎の大人形作りは、ほかの集落よりも早く、毎年八月の第一日曜日に集落の男性十二人程で行われる。



写真5 梶和崎の大人形

梶和崎の大人形は代田の大人形との共通点が多く、高さ二メートル程の稲藁製で、全身に杉の小枝を刺し、胸、臍、刀の鐔、槍の笠が棧俵で表現される。また、藁で作られた立派な男根を持ち、胸と臍の中心と男根の先端には茄子が付けられる。ただし、刀の表現については違いがあり、代田では木製の刀が二本差されるのに対して、梶和崎では竹製の刀一本だけが差される。また、顔の部分の材料には、恐ろしい形相に描かれた顔が長持ちするようにベニヤ板が用いられている（写真5）。

代田同様、大人形完成後は当番宅で簡単な酒宴が催され、大人形の行事が終了となる。

古酒の大人形

古酒の大人形作りは、代田と同じく毎年八月十六日に集落の男性十人程で行われる。

古酒の大人形も代田の大人形同様、高さが二メートル程の稲藁製で、全身に杉の小枝を刺し、カレンダの裏面に恐ろしい顔が描かれ、先端に茄子が付け



写真6 古酒の大人形

られた藁製の立派な男根を持つ。刀の表現については、梶和崎と同様に竹製の刀が一本だけ差される。古酒の大人形の特徴としては、刀の鐔と槍の笠のみが棧俵で表され、胸や臍が表現されない点にある。また、腰には注連縄に長年この集落の大工さんによって作られているという大きな紙垂しでが付けられる（写真6）。

代田、梶和崎同様、大人形完成後は地区の公民館で簡単な酒宴が催され、大人形の行事が終了となる。

長者峰の大人形

長者峰の大人形作りは、代田や古酒と同じく毎年八月十六日に集落の男性十二人程で行われる。

今でも当番の家が材料となる小麦藁を用意し、体芯部以外の手、足、鉢巻、棧俵で表現される胸、臍、刀の鐔、槍の笠などの部品が小麦藁で作られる。

長者峰の大人形は、恐ろしい形相をした顔がブリキ板に描かれ、ほかの集落の大人形より一回り大きく三m程あり、最も威圧感がある。全身に杉の小枝を



写真7 長者峰の大人形

以上、三つの集落の大人形について紹介をしたが、三つの集落で構成される仲郷区なかつくさでは市指定無形民俗文化財の申請の際、後継者不足、材料不足による行事存続の不安から、申請を辞退した経緯がある。このような民俗行事が消滅しつつある今こそ、代田の大人形同様、指定無形民俗文化財となって存続されていくことを期待したい。

刺し、腰には木製の刀が一本差され、小さな紙垂が付いた注連縄が回される。胸、臍は代田や梶和崎同様、茄子を刺した棧俵で表現されるが、ほかの集落の大人形と大きく異なる特徴は、男根が付けられないことにある（写真7）。その理由としては、男根を信仰する「金精大明神」の石祠が近くに祀られていることが関係するものと考えられるが、集落に大人形に男根を付けない由来や伝承が無いため、詳細については不明である（写真8）。他の集落同様、大人形完成後は当番宅か近くの広場で簡単な酒宴が催され、大人形の行事が終了となる。



写真8 「金精大明神」の石祠

〔参考文献〕

- 神野 善治「人形道祖神―境界神の原像」株式会社白水社 平成九年十月二十日発行
- 渡邊 徹「農村における年中行事―石岡市井関地方―」飯嶋印刷所 昭和六十二年十二月一日発行
- 小松崎章「大人形」資料執筆菴すいもん 平成二十一年一月十三日発行

（木植 繁）